

アマチュアキックボクシング 全国大会公式ルール

アマチュアルール 規則

前文

アマチュアキックボクシング全国大会は、6歳以上のキックボクサーの健全な育成と公式試合の安全かつ円滑な運営を通じ、日本キックボクシング界のさらなる発展を目的とする。

参加者は、下記に定めるルールを遵守し、スポーツマンシップに則り試合に臨まなければならない。

第1部 公式試合

【第1章 出場資格】

公式試合に出場する選手は、以下のすべての項目に適合しなければならない。

- (1) 公式試合に出場する選手の年齢の下限は6歳以上とし、上限は設けないとする。
組み合わせの年齢差は原則2学年までとする。
- (2) 試合を行うにあたり事前に頭部のCTまたはMRIを受診することが望ましい。
- (3) 未成年の場合、親権者の同意が得られること。
- (4) 試合当日セコンドを行う者が2名居ること。

【第2章 試合出場選手】

公式試合に出場する選手は以下のルールに従うこと。

- (1) レフェリーの指示に従うこと。
- (2) 試合中はレフェリーの許可なくリングを去らないこと。
- (3) 試合出場選手はすべて自己の健康状態に関して正直に申告しなければならない。
また、必要に応じて試合後の検診が義務付けられる。
- (4) 以下の既往症を有する選手は出場できない。
発作痙攣、偏頭痛、てんかん、脳炎、糖尿病、他ドクターに出場不可と診断された選手。

【第3章 リング】

リングは、アマチュアキックボクシング全国大会実行委員会が公式と認めたものを使用する。

*認定リングは5M×5M以上

【第4章 グローブ】

- (1) グローブは、アマチュアキックボクシング全国大会実行委員会公認のもの（試合時配布）を使用する
- (2) 各階級のグローブの重さは原則として下記の通りとする。

小学校低学年クラス	12オンス
小学校高学年クラス	12オンス
中学校クラス	12オンス
女性 高校生～一般女性クラス	12オンス

【第5章 バンテージ】

- (1) バンテージは布、コットン製の包帯状のものを使用する。
※軍手、ジェルバンテージは不可
- (2) バンテージを固定するためにのみ最小限のテープの使用は許されるが、ナックルパートにテープがかかってはならない。

【第6章 服装】

- (1) 着衣(上半身は体に密着したTシャツないしはタンクトップ。下半身は膝上のポケットや金具のないキックパンツ)
※Tシャツの着用義務はない。
- (2) マウスピース(各自の歯形にフィットしたものを使用すること)
- (3) フェールカッププロテクター(原則金属製)
- (4) ヘッドギアは、アマチュアキックボクシング全国大会実行委員会公認のものを使用する。
ヘッドギアは、衛生面に留意しアマチュアキックボクシング全国大会実行委員会が支給する。
※サイズ、形状が合わない場合ノーズガードが無いヘッドギアは持ち込み可。
- (5) 中学生クラスのレッグガード、ヒザパットはコットン製の物で皮製品のレッグガードは使用不可。
一般女性クラスのレッグパットはサイズが合わない等の理由があれば、布製品の着用可。
- (6) 試合中は上記以外のものの着用、使用を禁止する。

【第7章 計量】

- (1) 計量は試合当日2時間前に原則として行う。不可抗力により計量時間に遅れた場合は、アマチュアキックボクシング全国大会実行委員会の判断に従う。
- (2) 計量は、アマチュアキックボクシング全国大会実行委員会の任命した役員が行う。
- (3) 水分制限や無理な食事制限による減量をしてはならない。
- (4) 公式計量は1度のみとする。ウェイトオーバーの場合は失格となる。予備計量は可。
- (5) 計量器はアマチュアキックボクシング全国大会実行委員会の公認のものにより行う。

【第8章 年齢別クラス】

年齢別クラスは下記の通りである。

- (1) 小学校低学年男女別クラス(小学3年生.4年生)※各代表が認めれば小学1年生・2年生の参加も可能
- (2) 小学校高学年クラス(小学5年生.6年生)
- (3) 中学校クラス(中学1年生.2年生.3年生)
- (4) 女性 高校生～一般クラス(高校生～)

【第9章 クラスと試合時間】

クラス別の試合時間、インターバルは下記の通りである。

(1) 小学校低学年クラス男性・女性共通（小学3年生・4年生）

）※各代表が認めれば小学1年生・2年生の参加も可能

体重	・-22kg・-25kg・-28kg・-31kg・-34kg・+34kg以上	全6階級
試合時間	1分×2R（インターバル30秒）	
使用グローブ	12オンス	

(2) 小学校高学年クラス男性・女性共通（小学5年生・6年生）

体重	・-28kg・-31kg・-34kg・-37kg・-40kg・-45kg・+45kg以上	全7階級
試合時間	1分30秒×2R（インターバル30秒）	
使用グローブ	12オンス	

(3) 男性中学生クラス（中学1年生～3年生）

体重	・-34kg・-37kg・-40kg・-45kg・-50kg・-55kg・-60kg・+60kg	全8階級
試合時間	1分30秒×2R（インターバル30秒）	
使用グローブ	12オンス	

(4) 女性 中学生クラス（中学1年生～3年生）

体重	・-40kg・-43kg・-46kg・-49kg・-52kg・-55kg・+55kg	全7階級
試合時間	1分30秒×2R（インターバル30秒）	
使用グローブ	12オンス	

(5) 女性 高校生～一般クラス ※プロ戦績2勝以下

体重	・-43kg・-46kg・-49kg・-52kg・-55kg・-58kg・+58kg	全7階級
試合時間	1分30秒×2R（インターバル30秒）	
使用グローブ	12オンス	

※全ての試合は2Rにて行う。

1階級が8名以上となった場合は実行委員会にて試合ラウンド、試合時間などの変更を行う場合がある。

【第10章 セCOND】

(1) 1人の選手に許されるセCondは2人までとする。

(2) 2人のうち1名がインターバル中リングの中に入る事が許される。

(3) ラウンド中セCondはプラットフォームに上がることはできない。

(4) セCondは、選手の健康状態を常に把握し、けがや体調不良の場合は、ドクターやレフェリーに申告しなければならない。

【第11章 審判員】

レフェリーおよびジャッジ(以下「審判員」)は、競技の公正性を保つためアマチュアキックボクシング全国大会実行委員会より選任される。

- (1) ジャッジは3人とし、各ジャッジがリングサイドの3面に分かれ採点する。
- (2) 大会出場選手の関係者(マネージャー、セコンド等)は、その選手の試合の審判を務めることはできない。

【第12章 レフェリー】

レフェリーは、選手の健康管理を第1義として、試合の円滑な運営に務める。

- (1) レフェリーは、試合中、本ルール・規則が遵守されているかを常に監督しなければならない。
- (2) レフェリーは、減点や失格を宣告する場合には、試合を一旦中断し主催者にその理由等を知らせなければならない。主催者はその報告に従いアナウンサーにアナウンスさせる。
- (3) 選手が負傷し出血した場合は、直ちに試合を中断し、ドクターチェックを指示する。
- (4) レフェリーは、試合が一方的になるなど、健康上問題があると判断した場合は自己の判断で試合を終了させることができる。
- (5) 選手が反則を犯し、注意しても改善する見込みがない場合やレフェリーに反抗的な態度をとった場合は、その選手を失格とすることができる。
- (6) ダウンがあった場合、ダウンを与えた選手をニュートラルコーナーへ行くよう指示する。この指示に従わない場合は、カウントを中断する。
- (7) セコンドが本ルール・規則に従わない場合は、注意を与えることができる。注意を与えても改善しない場合は、セコンドを退場させることができる。

【第13章 ジャッジ】

- (1) 全ての試合は競技終了後、赤、青の旗により判定を決する。
- (2) ジャッジは試合結果のアナウンスがあるまで席を離れてはいけない。

【第14章 タイムキーパー】

- (1) タイムキーパーは、競技中リングサイドで計時する。
- (2) ダウン時にレフェリーのカウント中、規定時間が経過した場合は、レフェリーの「ファイト」の合図のあった後ラウンド終了のゴングを鳴らす。

【第15章 ドクター】

- (1) 試合中はリングサイドに1名、全国大会実行委員会公認のドクターを臨席させる。
- (2) ドクターは必要に応じて試合前後に健康診断をしなければならない。

【第16章 試合の判定】

試合の判定は以下の通りとする。

- (1) 判定勝ち
 - (2) KO勝ち
 - (3) TKO(テクニカルノックアウト) 勝ち
 - (4) 引き分け
 - (5) 失格勝ち
 - (6) 無効試合
 - (7) 不戦勝
- 負傷判定
- (1) 偶然のバッティングや偶然のアクシデントにより試合続行が不可能となった場合は、ストップとなったラウンドを含んだ採点により勝敗を決する。
 - (2) 採点が同点であった場合(公式記録は引き分け) 準決勝における負傷引き分けは、負傷していない選手が決勝に進む。

【第17章 採点方法】

1 採点は下記の基準に基づいて行う

- (1) 有効打
- (2) アグレッシブ
- (3) 攻撃 防御の技術
- (4) リングジェネラルシップ

2 採点は原則としてテンポイントマストシステム (10点法) で行う。

- (1) 各ラウンドとも、勝者は10点を得、対戦相手は、9, 8, 7点といったポイントとなる。同点の場合は10対10となる。
- (2) 勝者は、10ポイントで敗者は9ポイントになる。明らかに一方が優勢であった場合は、敗者は8ポイントとなる。
- (3) ラウンド中どちらかが1回ダウンをとった場合、そのラウンドは、10対8となる。
- (4) ラウンド中レフェリーは、反則行為に対して1ポイント以上の減点を与えることができる。

【第18章 反則】

次の各行為は反則となる。

- (1) ヒジ打ち、頭部による攻撃
- (2) 下腹部、後頭部への攻撃
- (3) ヒザによる顔面への攻撃
- (4) バックハンドブローによる攻撃
- (5) 投げ、サバ折り、相手選手の腕をロックする、柔道やレスリングの技を使用する
- (6) 倒れた相手への攻撃
- (7) 噛みつく、目を突く、相手選手に唾を吐く、また相手選手を挑発する行為
- (8) 攻撃の意思のないクリンチ (首相撲は5秒以内は許される)
- (9) ロープをつかむ、ロープの反動を利用する行為
- (10) 相手選手に背を向ける行為、故意にリング外に出ること
- (11) レフェリーの指示に従わないこと
- (12) セコンドがレフェリーにクレームを入れるなどの行為

反則行為を犯した選手、セコンドはレフェリーの判断により注意、警告を受け、又は失格になる。レフェリーは適当な時に注意を与え、警告をする場合は、一度試合を止め、反則の内容を明示して選手と各ジャッジに減点を報告。同一の種類反則が3度になった時レフェリーは警告を与える。3度警告を与えられた選手は自動的に失格となる。

【第19章 ノックダウン】

1. 次の状態にあるときはノックダウンとみなす

- (1) 有効打を受け、足の裏以外の身体の一部がリングに触れた場合
- (2) 有効打を受け、ロープにもたれかかった時
- (3) 有効打を受け、ロープの外に身体が出た時
- (4) 有効打を受け、リングの外に身体が出た時

2. カウント

- (1) ダウンがあった時レフェリーはカウントを行う。選手がダウンして1秒おいてカウントが開始され5 (ファイブ) カウントでKOとなる。
- (2) ダウンを受けた選手がファイブカウント以内に立ち上がった場合でもレフェリーはカウントを続けなければならない。
- (3) スタンディングカウントは許される。
- (4) 両選手が同時にダウンした場合、どちらか一方がダウンしている間はカウントは続けられる。5カウント後も両選手がダウンの状態の場合は試合終了、これまでの採点により勝者が決定する。
- (5) インターバル (休憩時間) 後すぐに試合を開始できない選手は失格負けとなる。